

西山地区

コミュニティ協議会だより

【(西風) 令和8年度1月号

発行：西山地区コミュニティ協議会

会長 中村 史傳

編集 中村美也子

令和8年1月 5日発行

瀬々野浦 1194 ☎ 5-0122



1月～2月前半の行事予定

- 1/1 (木) 拝賀式・賀詞交歓会 10時～
- 1/3 (土) 20歳を祝う会 (手打コミ)
- 1/6 (火) 事務局会議
- 1/9 (金) 主事会議 (鹿島)
- 1/11 (日) 出初式 (長浜緑地公園)
- 1/17 (土) 健康サロン
- 1/20 (火) 事務局会議
- 1/21 (水) 健康体操
- 2/8 (日) 避難訓練予定日



新年あけまして

おめでとうございます

12/27 門松作り

新年あけましておめでとうございます。
昨年皆様のおかげで充実したコミ協の活動ができたことに感謝申し上げます。

さて今年の干支(えと)は丙午(ひのえうま)です。六十年前の丙午には、ある迷信がとりあげられて出産率が前年よりも二十五%も減るという現象がありました。出産率の低下によって少子化が進んでいる今回の丙午の年は六十年前ほどの迷信をとりあげていません。

丙午がどうのこうのといわれなくても、ここ西山地区では赤ちゃんの産声が聞こえず、「トシの晩」のトシドン様に会うこともなく日常外を歩いても人と会うことさえめったにありません。このような集落の状況の中でも私たちは、この集落をなんとか少しでも長く維持させようと、高齢にムチ打ってがんばっています。

人口が減っても同じような活動を行うとすると一人々の果たすべき役割と責任は大きくなり無理をしなければならなくなります。しかしながら無理をしてでも責任を果たそう、役割を果たそうとするのがシンヌウラ人の心意気であり意地でもあります。この心意気と意地があるから元気であり活動的であるのかもしれません。しかし無理をすることはどこかで破綻(はたん)をきたしてしまいます。ですから無理をしないでムキや意固地にならないで健康で長生きできるような活動を考えて推進していくのが西山地区コミ協の使命と思っています。今年もまた元気で楽しい一年としていきましょう。

会長 中村史傳

2026・1・1 拝賀式・賀詞交歓会を行いました。

10時より行い30名ほどの方が参加されました

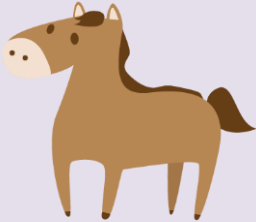
会長・区長挨拶があり 「1月1日」を皆さんで歌い その後

賀詞交歓会を行いました。楽しい1年の始まりとなりました。



助八古道を歩こう会

12/14 恒例行事となっている助八古道を歩こう会が行われました。天候不良のためキャンセルも多かったですが参加者120名スタッフを入れると167名での開催でした。怪我もなく完歩でき何よりでした。前日からの豚汁づくりから配給までご協力いただきありがとうございました



* 老い老いパワー全開 *

ペタンク大会 優勝！！

12/12 かの子幼稚園体育館でペタンク大会が行われました。なんと子岳チームを倒し久しぶりの優勝を手にしました。バンザイ！！優勝チームは史傳会長・大熊会長・宮野蔵郎さんです。



* 高齢者サロン *

12/21(日)今年最後の高齢者サロンが行われました。クリスマス会・忘年会を兼ねて行い21名の方が参加されました。食事も豪華で楽しい時間を過ごされました。今年も楽しみです。



故郷を探る⑧

ウマにまつわる話

昭和八年、民俗学者桜田勝徳は瀬々野浦は馬しか飼っていないと記している。理由は瀬々野浦の田畑は広大な山腹に広がっており、あゆみの遅い牛では田畑に行くのに時間がかかるから、馬を飼うのだらうとしている。

祖父は幼い頃、ウンヌウラの田仕事の帰りにマチイタの坂を登るのに疲れ、曾祖父が馬に乗せてくれたそうである。馬の背に揺られて心地よさに居眠りしそうになり曾祖父から「いねむいどもすんな。シマから落つっど」といわれたと思ひ出を語っていた。

明治二十年代のことである。農耕用、運搬用としてほとんどの家で馬を飼っており「秣(まぐさ)かり」(シマノクサキイ)は十二・三才になった子供の仕事だった。硫黄島で戦死された種夫アンサンたちと連れだって秣切りに行き、よく「カケズモウ」(少し遠いところに刈った草を並べて置き鎌を投げ、鎌がささったらさした者が草をとる)をしていたとは大正八年生まれの父の話だった。昭和戦前まではこのように馬を飼う家が多かったが戦後は牛の飼育へとかわっている。私の記憶に残る馬は、逸志オジイが飼っていた一頭の馬だったが、いつのまにか牛へと入れかわっていた。

中村史傳

今年も一年よろしくお祈いします